２２．入院患者の転倒・転落発生率

算式

$$\frac{\text{【分子】入院中患者に発生した転倒・転落件数（労災病院グループにおけるインシデント・アクシデントレベル３ａ以上の事例に限る。）}}{\text{【分母】入院患者延数}} \times 1000$$

定義

入院患者の転倒・転落発生割合

指標の解説

施設調査より抽出

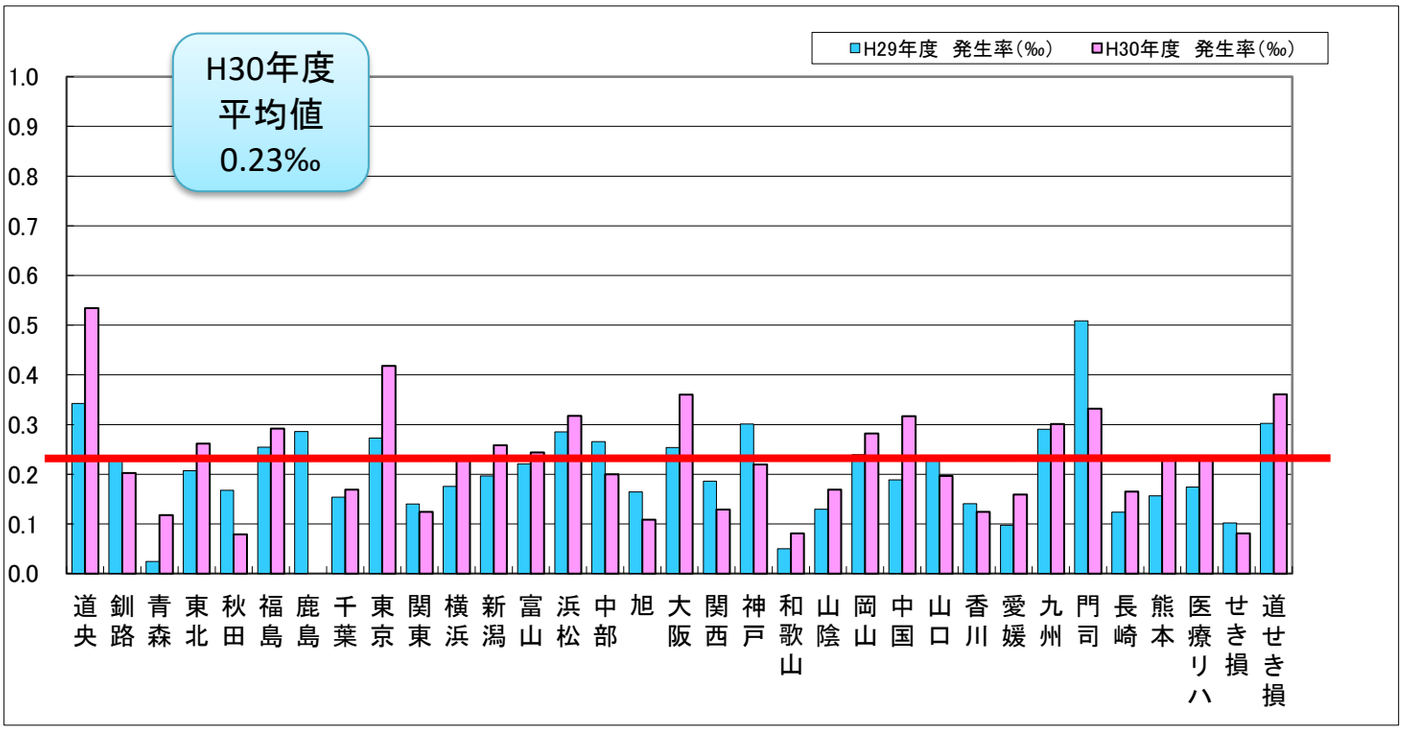
安全で質の高い医療の提供に関して、医療安全対策への取組みについて入院患者の転倒・転落の発生状況から評価する。

インシデント・アクシデント事例の中で転倒・転落件数が最も多く、各病院では医療安全対策の取組みとして転倒・転落のリスクをアセスメントして予防策を立案・実行している。

転倒・転落発生率が低い場合には、転倒・転落予防に積極的に取り組み、またその効果が表れていると評価できる。

※　‰ ＝ 1000分の1

２２．入院患者の転倒・転落発生率



		H29年度			H30年度		
No	施設名	分母	分子	発生率(‰)	分母	分子	発生率(‰)
1	道央	52,557	18	0.34	56,180	30	0.53
2	釧路	132,724	31	0.23	133,276	27	0.20
3	青森	81,220	2	0.02	76,596	9	0.12
4	東北	154,438	32	0.21	153,096	40	0.26
5	秋田	59,700	10	0.17	50,810	4	0.08
6	福島	90,477	23	0.25	85,676	25	0.29
7	鹿島	10,504	3	0.29	4,750	0	0.00
8	千葉	117,115	18	0.15	118,169	20	0.17
9	東京	121,029	33	0.27	114,770	48	0.42
10	関東	178,720	25	0.14	177,198	22	0.12
11	横浜	199,467	35	0.18	194,871	45	0.23
12	新潟	45,834	9	0.20	46,511	12	0.26
13	富山	81,616	18	0.22	73,729	18	0.24
14	浜松	87,594	25	0.29	85,086	27	0.32
15	中部	150,708	40	0.27	155,186	31	0.20
16	旭	72,887	12	0.16	73,932	8	0.11
17	大阪	200,962	51	0.25	200,037	72	0.36
18	関西	193,837	36	0.19	194,194	25	0.13
19	神戸	103,066	31	0.30	100,352	22	0.22
20	和歌山	99,353	5	0.05	98,488	8	0.08
21	山陰	108,158	14	0.13	106,577	18	0.17
22	岡山	104,493	25	0.24	102,940	29	0.28
23	中国	121,912	23	0.19	120,008	38	0.32
24	山口	94,041	22	0.23	96,665	19	0.20
25	香川	134,897	19	0.14	128,815	16	0.12
26	愛媛	61,692	6	0.10	56,554	9	0.16
27	九州	141,230	41	0.29	139,528	42	0.30
28	門司	56,978	29	0.51	60,307	20	0.33
29	長崎	105,207	13	0.12	103,029	17	0.17
30	熊本	127,585	20	0.16	128,870	30	0.23
31	医療リハ	34,379	6	0.17	34,545	8	0.23
32	せき損	49,196	5	0.10	49,629	4	0.08
33	道せき損	42,989	13	0.30	38,812	14	0.36
合計		3,416,565	693	0.20	3,359,186	757	0.23
平均	500床以上	179,689	37	0.20	179,097	39	0.22
	400床以上	129,896	28	0.21	127,545	34	0.26
	300床以上	97,485	18	0.18	97,071	20	0.21
	300床未満	51,631	10	0.20	49,875	11	0.22